

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ（GCBⅡ）							
科目名（英）	Groval citizen basic Ⅱ							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	木村 孝	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年							
授業概要	医療従事者として基礎となる、感謝心と思いやりの心を学ぶ。 医療従事者としての正しい言葉使い、社会人としてのマナーを学び社会人基礎力向上を目標とする。 また医療人としてチーム医療を取るためのコミュニケーション能力を獲得することを目的とする。							
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 （到達目標）	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○			○		グローバル・シティズンとは何かを理解し、自分が恵まれた環境にあることに感謝することができる。		
	○			○		仲間を大切に、共同（協働）の気持ちを持つことの重要性を考え、気づくことが出来る。		
	○					医療従事者として、正しいことば遣いを理解することができる。		
			○			医療従事者として、立ち振舞の基本と応用を実践することができる。		
○						チーム医療の中でより良いコミュニケーションを取るためのマナーを理解できる。		
テキスト・教材 参考図書	GCBⅡオリジナルテキスト							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志～志とは何か～					振り返りレポートシートの提出	
	2	グローバルシティズンと志～どうすれば志を立てることができるのか～					教科書にて復習	
	3	なぜ志を立てることが大切なのか～世界の中の日本・日本の中の私①～					教科書にて復習	
	4	なぜ志を立てることが大切なのか～世界の中の日本・日本の中の私②～					振り返りレポートシートの提出	
	5	自己を知る～私の過去・現在・未来①～					教科書にて復習	
	6	自己を知る～私の過去・現在・未来②～					振り返りレポートシートの提出	
	7	伝える力を学ぶ①					教科書にて復習	
	8	伝える力を学ぶ②					教科書にて復習	
	9	GCBと志～どうすれば志を立てることができるのか～					配布資料の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	10	なぜ志をが大切なのか～世界の中の日本・日本の中の私～					配布資料の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	11	自己を知る～私の過去・現在・未来～					配布資料の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	12	与えられた1度の人生に感謝し、志高く生きる②					配布資料の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	13	伝える力を学ぶ グループコミュニケーション					配布資料の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
	14	自己の大切さと責任を自覚する					配布資料の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと。	
15	まとめ・GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと							
評価方法	成績処理方法： 1.課題レポート100（％）授業への出席・レポート締め切り日の厳守を含む							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	レポート	◎		○	◎		100%	
履修上の注意								

科目名	コミュニケーション学						
科目名(英)	communication skill						
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	高柳 希	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	コミュニケーション理論を学ぶことで、幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を 具体的に理解し自ら考え、物事を進めていくことができる。さらに他者との関わりの中に発生する事柄に対して、多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考する 力を身につける。						
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:		※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					幅広い意味を持つ“コミュニケーション”を 具体的に理解することができる	
	○	○		○		“コミュニケーション”に関して自ら考え、物事を進めていくことができる	
	○		△			多様な視点と他者の立場を想像しながら、深く思考することができる	
テキスト・教材 参考図書	宮原哲:新版 入門コミュニケーション論 松柏社 参考文献: 末田清子・福田浩子:コミュニケーション学 松柏社 大森武子・大下静香・矢口みどり:仲間とみがく看護のコミュニケーションセンス 医歯薬出版(株) 山口美和:PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	コミュニケーション概論 コミュニケーションとは何か				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	2	コミュニケーション基礎① メッセージの種類				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	3	コミュニケーション基礎② ノイズの影響				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	4	コミュニケーション基礎③ 様々な能力				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	5	対人コミュニケーション① 会話のスタート				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	6	対人コミュニケーション② 立場と認識				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	7	対人コミュニケーション③ リスニング				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	8	対人コミュニケーション④ 質問と連想				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	9	個人内コミュニケーションと自己概念				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	10	報告・連絡・相談				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	11	対立処理				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	12	パブリックコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	13	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	14	応用① 医療現場とコミュニケーション				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
	15	全体復習とまとめ				資料・テキストを用いて復習する。 日常生活場面で実践してみる。	
評価方法	(1)授業の中で行動習熟度を確認する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	コミュニケーション行動習熟度	◎	◎	◎	○		20%
	レポート	◎	○				10%
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)	Seminar for Anatomy						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	小川 皓一
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	身体の基本的構造として、感覚器系、神経系の解剖学的構造の理解を図る。また、組織学演習により組織構造の理解を図る。授業形式として、概要となる講義を実施した後、自ら課題学習を進め解剖学的構造と名称を、国家試験レベルを目標としての理解を図る。 また、身体の構造・位置関係の総理解として、肉眼解剖見学を実施する。						
授業形態	講義 △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				組織の名称と構造を演習により理解し、国家試験問題を解答できる。	
	○	○				感覚器系の解剖学的構造・機能を理解し、国家試験問題を解答できる。	
	○	○				神経系のの解剖的構造・機能を理解し、国家試験問題を解答できる。	
	○	○				主要な臓器の名称と位置関係を理解し、国家試験問題を解答できる。	
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店。 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社。 参考文献：ネッター解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂。 日本人体解剖学 上・下巻(第20版) 金子丑之助(原著) 南山堂。 入門組織学(第2版) 牛木辰男著 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	身体の構造の理解 感覚器系 (皮膚、平衡聴覚器)				感覚器の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	2	身体の構造の理解 感覚器系 (味覚器、嗅覚器、視覚器)				感覚器の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	3	身体の構造の理解 神経系 中枢神経 (脳-1)				中枢神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	4	身体の構造の理解 神経系 中枢神経 (脳-2)				中枢神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	5	身体の構造の理解 神経系 中枢神経 (脊髄)				中枢神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	6	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脳神経-1)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	7	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脳神経-2)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	8	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脊髄神経-1)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	9	身体の構造の理解 神経系 末梢神経(脊髄神経-2)				末梢神経系の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	10	身体の構造の理解 神経系 自律神経系				自律神経の構造・名称、位置関係を自己学習にて進める。	
	11	身体の構造の理解 神経系 伝導路(上行性・下行性伝導路)				神経伝導路の構造・名称、位置を自己学習にて進める。	
	12	身体の構造の理解 神経系のまとめ (国家試験形式での復習)				国家試験問題にて神経系の構造について理解を得る。	
	13	組織学演習①				演習にて自己学習を進める	
	14	組織学演習②				演習にて自己学習を進める	
15	肉眼解剖学演習				献体 肉眼解剖見学により身体の総合的理解を得る		
評価方法	(1定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意	身体構造のイメージと解剖学的名称の理解を自己学習において進めておくこと。						

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology; Practice						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	坂口 博信 大津 隆一	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	本講義が演習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものにすることを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	◎	◎	◎		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂 参考文献:コメディカルのための生理学実習ノート 南江堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	電気生理の基礎				学んだ学習を復習し、実習につなげていくこと	
	2	実習 運動神経伝達速度の測定(誘発筋電図)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	3	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	4	知覚と行動(脳の仕組み)				学んだ学習を復習し、実習につなげていくこと	
	5	実習 随意運動の反応時間				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	6	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	7	体性感覚				学んだ学習を復習し、実習につなげていくこと	
	8	実習 体性感覚(2点識別・重量感覚)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	9	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)				学んだ学習を復習し、実習につなげていくこと	
	10	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	11	脳波 レポート作成				実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること	
	12	心電図				学んだ学習を復習し、実習につなげていくこと	
	13	心電図 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
	14	呼吸量				学んだ学習を復習し、実習につなげていくこと	
	15	呼吸量 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				50%
	小テスト	◎	◎	○	○		50%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅰ						
科目名(英)	KINESIOLOGY						
単位数	2単位		時間数	60時間	担当者	佐藤 利行	
実施年度	2023年度		実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	基本的な身体運動基礎の理解より開始し、骨格・関節・靱帯の構造を理解する。 理学療法士の評価治療介入の基礎となる身体運動の知識(上肢)を修得し、上肢の各関節運動を各自で説明できることを目標とする。また、講義内容に対する理解度を国家試験問題も含め、確認を行う。						
授業形態	講義： ○		演習： △	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体運動の方向と運動名称について説明できる。	
	○	○				基本的な骨格系の構造や名称を説明できる。	
	○	○				上肢各関節の構造・運動について説明できる。	
	○	○				該当する範囲の国家試験が理解できる。(70%以上)	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一 他 著:基礎運動学 第6版 補訂 2)山崎峻 著:PTOTビジュアルテキスト 運動学 第1版 3)河合良訓 監:骨単(語源から覚える解剖学英単語集)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 運動学の概要 (運動用語の理解、運動面と軸との関係)				シラバス内容を事前に確認しておくこと	
	2	運動の基礎 筋の起始停止 作用の理解 関節構成体 関節形態と運動方向の関係 主な関節の関節形態の確認				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	運動学 概要と基礎の復習 ここまでのテスト 骨格系①:総論、頭蓋骨 骨格系②:脊柱・胸郭				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	骨格系③:上肢帯の骨 骨格系④:下肢帯の骨				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	骨格系の復習 ここまでのテスト 関節と靱帯:総論 上肢帯・下肢帯の連結				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	肩関節 肩甲上腕関節 肩関節の概要(ショルダーコンプレックス) 肩甲上腕関節 (安定要素 運動にかかわる筋)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	広義の肩関節 各関節の形態と特徴 肩甲上腕リズム				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	肩関節のまとめと復習 肩関節のテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	肘関節 肘関節の解剖形態 各関節の形状と安定要素 前腕 前腕の運動を導く関節の理解 安定要素と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	肘、前腕のまとめと復習 肘前前腕のテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	手関節 手関節の関節構造の理解 安定要素と運動要素				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	手指の動きと 腱鞘の理解 手関節と手指のまとめとテスト				これまでの授業資料を復習しておくこと 教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	国家試験問題				これまでの授業資料を復習しておくこと	
	14	国家試験問題				これまでの授業資料を復習しておくこと	
	15	全体復習とまとめ				これまでの授業資料を復習しておくこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	各期間でのテスト	◎	◎				20%
履修上の注意	身体の運動への興味を持つ事。基本的身体構造を自ら覚える取り組みが必要。						

科目名	基礎医学講座									
科目名(英)										
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		峰岡 哲哉・仲吉 功治	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部1年									
授業概要	主要な基本的な用語について、国家試験問題等を実際に取り組みながら、説明ができることを目標とする。									
授業形態	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				国家試験問題を通して神経構造・機能が理解できる。				
	○	○				国家試験問題を通して中枢神経構造・機能が理解できる。				
	○	○				国家試験問題を通して、骨、関節の構造、機能を理解できる。				
	○	○				国家試験問題を通して、四肢の構造・機能を理解できる				
テキスト・教材 参考図書	関係する科目の教科書を使用します。									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	オリエンテーション・国家試験について								
	2	肩甲上腕関節の構造・運動について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	3	肩甲上腕関節に関係する筋について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	4	膝関節の構造・運動について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	5	膝関節に関係する筋について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	6	細胞の興奮と分極について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	7	神経の伝達について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	8	中枢神経と末梢神経					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	9	上行性伝導路について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	10	下行性伝導路について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	11	心臓について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	12	呼吸について					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	13	バイタルサイン					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	14	バイタルサイン					教科書の該当範囲を事前に読み、わからない用語等は調べておくこと			
	15	総復習								
評価方法	(1)小テスト・課題 (2)定期試験(筆記)を実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		◎	○				70%		
	小テスト		◎	◎				30%		
	宿題・レポート									
	発表・作品									
履修上の注意										

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	安藤 廣美
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や基本的な診断・治療 について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医療概論／小橋 元／医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医療の基本「人道主義・人権」と患者の権利を尊重する				教科書の予習しておく。	
	2	医療現場の倫理/2つのケースから学ぶ臨床倫理				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	「人の気持ちを慮ること」の大切さ/情報共有とチーム医療				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	カウンセリングによる自己決定支援/医療職のプロフェッショナルリズム				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	多様な健康観と医療観/健康の決定要因とヘルスプロモーション				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	Well-being(幸福・健康)のとりえ方と支援一国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーション				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	心の病とWell-being/Well-being(幸福・健康)を高める支援				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	保健医療が追求する価値と医療職の役割				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	近代医学の誕生と感染症対策				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	非感染性疾患の増加一生活習慣病の予防に求められる姿勢				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	ゲノム医療の登場からゲノム編集へ/医療・情報テクノロジーの活用に伴う課題				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	健康影響をもたらす環境問題と医療職のあり方/薬害にみる利害関係の医療への影響と医療の質				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	補完代替医療と全人的統合医療/臓器移植から再生医療へ				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	健康を次世代へつなぐこと一本当に守らねばならないものは何か？				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	科学的根拠とこれからの医療				教科書の予習しておく。 授業試料のまとめを復習しておく。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	臨床心理学						
科目名(英)	Clinical psychology						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	井上 慎司	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	・心理学・臨床心理学の基礎的な概念や理論を学ぶ。 ・心理アセスメントの基本的な前提、方法、解釈法について理解を深める。 ・性格とパーソナリティ、発達、発達段階の定義と分類について理解する。 ・心理臨床の基本的な想定、傾聴や受容など、心理療法の基礎についての理解を深める。						
授業形態	講義：	○	演習：		実習：		※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		対象者への援助の方法やその実践について基礎的な知識・技法を説明できる。	
	○	○		○		臨床心理学の知識を臨床抱擁する為の方法を説明できる。	
	○	○		○		他者や自分自身を振り返る機会とし、自己認識した内容を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	『心理学【カレッジ版】』 山村豊・高橋一公 医学書院 参考文献：川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 心とかかわる臨床心理[第3版] ナカニシヤ出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	心理学とは何かー心とは何か、対人援助と心理学、心理学の研究法				教科書の予習をしておく。	
	2	臨床心理学とは何かー歴史				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	記憶ー記憶のメカニズム、短期記憶と作業記憶				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	思考知能ー思考とは何か、知能とは何か、知能検査				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	学習ー古典的条件づけ、オペラント条件づけと学習理論				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	動機づけー感情とは、感情のメカニズム、動機づけの理論				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	性格ー性格の理論、人格検査				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	発達①ー各発達段階の捉え方、乳幼児期、児童期				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	発達②ー青年期、成人期、アイデンティティ、中年期、高齢期				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	心理療法理論①ー古典的精神分析療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	心理療法理論②ー来談者中心療法など				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	心理臨床の基礎ー心理臨床と臨床心理学、心の適応と不適応、精神疾患の分類				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	医療領域における心理的な援助①ー医療職と対人援助、対人援助の機能				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	医療領域における心理的な援助②ー患者の心理特性、医療従事者の心理				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	全体復習とまとめ				これまでの授業資料を復習しておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎		○		100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	国家試験の過去問に目を通し、どの程度の心理学・臨床心理学な知識が求められているのかをひとまず理解したうえで、医療従事者として、さらなる心理的な理解を深めることが望ましい。						

科目名	地域包括ケアシステム学										
科目名(英)											
単位数	2単位		時間数		60時間		担当者		筒口 さゆり・木村 孝		
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年										
授業概要	地域で生活を送る対象者が健康や障害にかかわらず、安心して生活できるように支援する理学療法士の役割について、他職種からの実践例や講義を通して、地域包括ケアシステムとチームとしての理学療法士の役割が説明ができるようになることを目標にします。										
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				地域包括ケアシステムの中での地域理学療法の理念と役割を説明することができる。					
	○	○				他職種連携で関わる職種の特徴と役割について説明することができる。					
	○	○				事例をとおして他職種連携の働きかけや効果について説明することができる。					
	○	○		○		事例をとおして地域包括ケアシステムの概要の説明ができる。					
テキスト・教材 参考図書											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	オリエンテーション・地域包括ケアシステムの概要					該当する教科書を事前に予習しましょう。グループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	2	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(Dr)					該当する教科書を事前に予習しましょう。グループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	3	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(NS)					該当する教科書を事前に予習しましょう。グループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	4	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(CM)					該当する教科書を事前に予習しましょう。グループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	5	理学療法士として他職種種との関わり(PT)					該当する教科書を事前に予習しましょう。グループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	6	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(OT)					該当する教科書を事前に予習しましょう。グループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	7	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(ST)					該当する教科書を事前に予習しましょう。グループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	8	他職種専門職種理解(グループワーク)					講義内容を振り返って、内容をグループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	9	他職種専門職種理解(グループワーク)					講義内容を振り返って、内容をグループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	10	他職種専門職種理解(発表)									
	11	他職種専門職種理解(発表)									
	12	事例検討(グループワーク)					事例内容を読み込み、内容をグループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	13	事例検討(グループワーク)					事例内容を読み込み、内容をグループワークで必要な要点をまとめましょう。				
	14	事例検討(発表)									
	15	総復習・授業内評価									
評価方法	(1)定期試験(筆記)、(2)グループワーク・発表、(3)レポート・課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
	定期試験	◎		◎						70%	
	レポート課題	○		◎						15%	
	発表	○		◎				◎		15%	
履修上の注意											

科目名	評価学Ⅰ						
科目名(英)	Evaluation of Physical Therapy Ⅰ						
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	松木 直人
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 1年						
授業概要	①理学療法評価の項目と内容(意味)と必要性について述べ、各検査・測定項目について正確に 実施することができるようになる。②測定結果よりその障害像について考察することができるようになる。						
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:	実技: ○	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				対象者の何を評価するのかを知り、理学療法評価の意味、理学療法プロセスの流れを理解する。	
	○	○	○	○		情報収集の目的と内容を知り医療面接ができるようになる。	
	○	○	○			バイタルサインの目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
	○	○	○			形態測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
	○	○	○			関節可動域測定の目的と内容を知り正確な測定ができるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:1)潮見泰臈, 下田信明:リハビリテーション基礎評価学第2版. 基礎運動学 第6版 齋藤 宏・中村隆一著 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	評価総論① オリエンテーション 評価とは・・・検査・測定について考える。PBL				教科書の確認をしておく。	
	2	評価総論② 検査・測定の意義・目的と評価の構成要素				教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。	
	3	生理機能評価(バイタルサイン)① 基本的知識と測定する意味を考える。 バイタルサインの測定方法と記録				教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。	
	4	生理機能評価(バイタルサイン)② 実技・演習				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	5	形態測定① 形態測定とは 四肢長(骨のラウンドマーク確認)実技				教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。	
	6	形態測定② 形態測定(周径)実技				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	7	形態測定③ 形態測定 演習(知識の整理)				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	8	関節可動域測定 ① (解剖学的知識、関節構造、運動学の知識の統合)				教科書の予習をしておく。 授業復習しておく。	
	9	関節可動域測定 ②上肢 実技(肩甲帯・肩・肘・手指)				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	10	関節可動域測定 ③上肢 演習(知識の整理)				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	11	関節可動域測定 ④下肢実技(股・膝・足)				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	12	関節可動域測定 ⑤下肢 演習(知識の整理)				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	13	関節可動域測定 ⑥頸部・体幹実技(股・膝・足)				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	14	関節可動域測定 ⑦頸部・体幹 演習(知識の整理)				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
	15	OSCE説明 演習				前回授業の教科書範囲を予習をしておく。 演習の問題を繰り返し復習しておく。	
評価方法	(1)授業の演習で小テストを実施する。(2)OSCE(客観的臨床技能試験)を実施 (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				50%
	小テスト		◎				20%
	実技試験	◎	◎	◎			30%
	発表・作品						
履修上の注意	実技は実習着もしくは所定の服装で臨む						